

安全報告書 2026

東急電鉄 安全への取り組み



人へ、街へ、未来へ。



東急電鉄

ごあいさつ

東急電鉄株式会社
取締役社長

福田 誠一



日ごろから、当社鉄軌道事業にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2025年10月5日、田園都市線梶が谷駅において列車が衝突、脱線する事故を発生させてしまいました。本事故により、田園都市線および大井町線において長時間運転を休止し、多くのお客さまに影響を及ぼすこととなり、通勤・通学をはじめ多くの方々に多大なご迷惑とご心配をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

本事故の原因は、信号システムの条件設定不備でした。不備が起きた背景として、過去の信号条件の設定変更の際に、設備の安全性を定めた技術基準への適合確認が不十分だったことや、設計に関する注意点が明文化・可視化されておらず、必要な信号条件を設定できなかったこと、技術の境界領域における部門間調整時の連携が不十分だったことが挙げられます。

本事故を受け、4つの再発防止措置「技術基準との適合性の確認方法の見直し」、「設計時の部門間調整方法の見直し」、「設計に関する組織的な確認体制の構築」、「風化防止のための継続的な教育」を着実に推進するとともに、これまで以上に部門を超えて連携し、安全を確保するための業務プロセスの改善を強く推進してまいります。

「安全と安心」は当社の鉄軌道事業の根幹であるとともに、お客さまが当社にお寄せくださる「信頼」の源泉です。二度とこのような事故を発生させないよう、全社をあげて安全管理体制の強化に取り組み、より安全で快適な鉄道輸送に努めてまいります。

当社では、2024年度を始期とする中期事業戦略を推進しており、本年は当社の中期事業戦略の最終年度となります。昨年度の2025年度は、東急線の全踏切134カ所[※]に障害物を検知する能力の高い3D式センサーを用いた踏切障害物検知装置の設置が完了した他、さらなる安全性と快適性を追求した大井町線の新型車両導入、目黒線の車両リニューアル等を推進してまいりました。また、近年モバイルバッテリー等の発煙・発火が増加していることから、耐熱・難燃性素材のシートを各車両に搭載し車内トラブルへの対応力を向上させるなど、ハード・ソフトの両面で安全対策を進めてまいりました。

2026年度も引き続き、鉄道施設の老朽化対策として大規模な駅リニューアル工事や土木構造物の維持・更新を行う他、無線通信技術を活用した列車制御システムの導入推進を行うなど列車の安全・安定運行に必要な鉄道インフラの健全性の維持・向上に努めます。

また、お客さまの避難誘導や情報配信のよりきめ細やかな対応など、ソフト面での対応力向上も継続して推進いたします。

これらの取り組みを相互直通運転している各社とも連携し、広域鉄道ネットワーク全体の安全性向上を目指すことで、公共交通としての使命を果たし続けてまいります。

最後となりますが、本誌は、2025年度の当社における安全の取り組みをとりまとめた報告書です。安全のさらなる向上のために、ぜひご一読いただき、ご意見や感想をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

※世田谷線・こどもの国線を除く

安全の確保は鉄道事業の 最大かつ最重要の責務である

鉄軌道事業において「安全の確保」は何よりも優先されます。

輸送の安全の確保に関する理念および行動規範を「安全方針」として定めています。

また、輸送の安全の確保に向けた当社の課題を抽出し、それらの課題を解決するため

達成すべき目標を定め、そのために優先して行う取り組みとして「安全重点施策」を定めています。

「安全方針」「安全重点施策」を基に、安全意識を再徹底する中でリスク感度を高め、

安全の維持・向上を図ってまいります。

安全方針

「安全の確保」は鉄道事業の最大かつ最重要の、お客さまに対する責務である。

私たちは東横線列車衝突事故などを決して忘れず、全社一丸となって、この責務を誠実に果たし社会に貢献する。

- ・ 一人ひとりがルールを遵守し、正則作業を確実に遂行するとともに、判断に迷ったときは、自ら考え、臆せず最も安全と思われる取り扱いをする。
- ・ 事故災害などが発生したときは、人命を最優先に考えて行動し、速やかに安全適切な処置をとる。
- ・ 部門をこえて協力一致し、情報を迅速に伝え、安全の障害となる問題を速やかに解決する。
- ・ 鉄道事業を担う誇りと問題意識を常に持ち、必要な改善を継続し、安全の取り組みを進化させる。

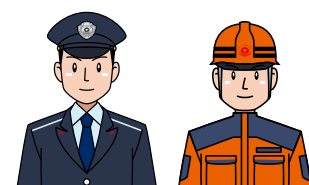
安全重点施策

- (1) 事故未然防止
- (2) 異常時の対応力強化
- (3) 激甚化する災害に対する強靱化
- (4) これらを推進するために、全社一丸となった安全に取り組む意識・姿勢のレベルアップ

重大事故の教訓を踏まえ、より高い水準の安全を確保するため、 従業員一人ひとりが全力で安全を追求し、さまざまな取り組みを行っています。

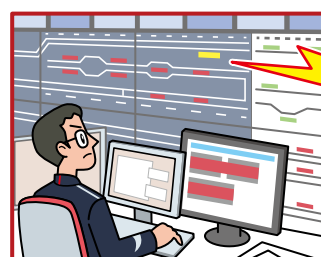
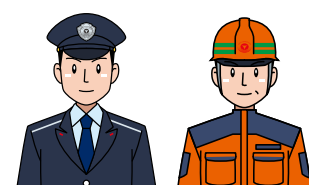
経営トップから第一線の従業員まで、全社一丸となって、
日々の安全運行とお客さまの安全を確保するための体制を整えています。
また、安全運行を支えるシステムや設備の整備、保守・管理を徹底し、日々確実な業務の遂行に努めています。

危機管理

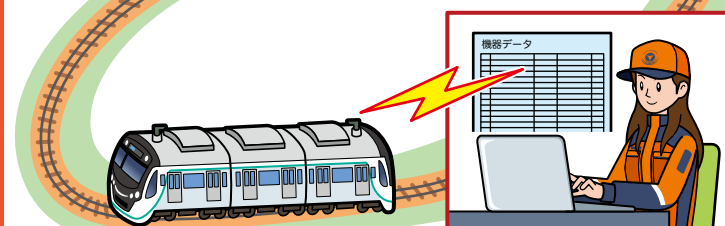


- 万が一のとき迅速に対応し、お客さまの安全を守ります。
- もしもの場合に備えて、訓練などにより復旧力を高めています。

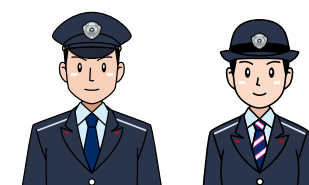
設備とシステム



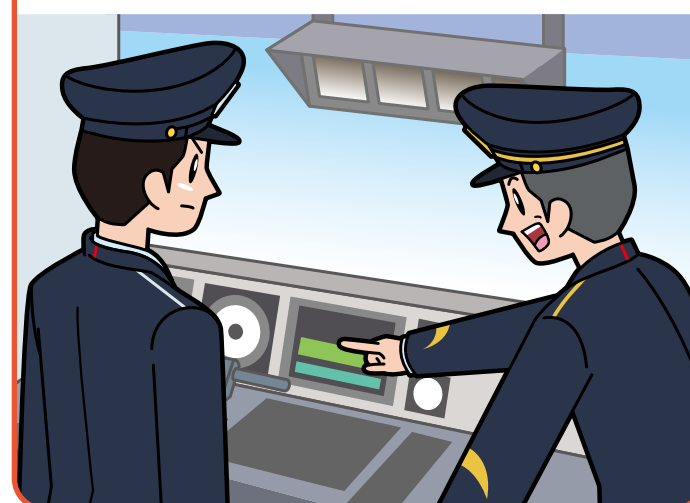
- 各駅、各拠点をシステムがつなぎ、運輸司令所が中心となり各所と連携し、安全運行を支えます。



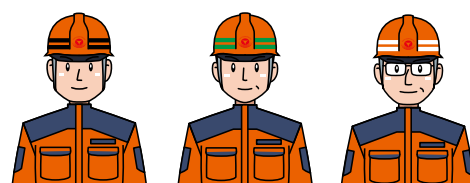
人材育成



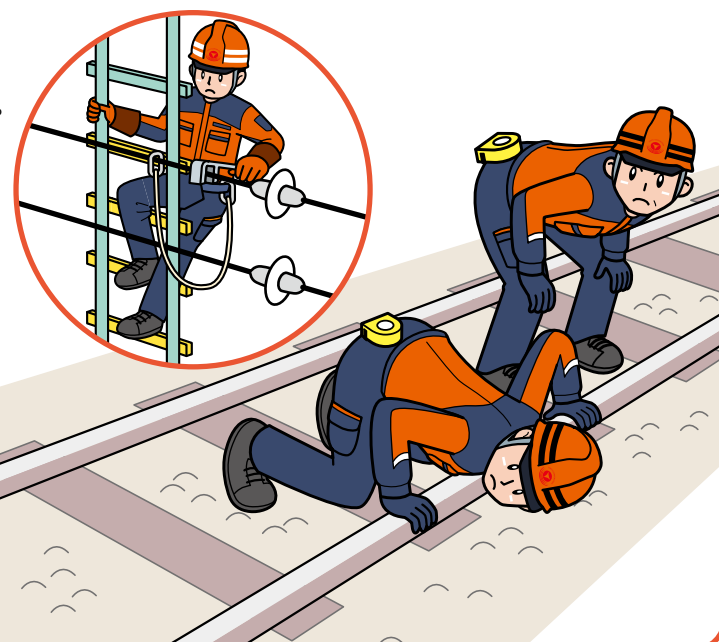
- 技術と技能の維持・向上に励み、万が一システムにトラブルが発生しても運行を継続できるよう、司令員、乗務員、関係者と協働し対応力の強化に取り組んでいます。



保守管理



- 細心の注意を払い、日々保守・管理を行っています。



施設の安全対策

- 全てのお客さまに安心してご利用いただけるように、ホームドアや防犯カメラを整備するなどの対策を実施しています。



- 検知精度の高い3D式踏切障害物検知装置を2026年3月末までに134カ所に導入しました

目次

ごあいさつ	2
安全方針・安全重点施策	3
安全管理体制	6
安全管理体制	6
規程と体制	6
安全管理の確認体制と方法	7
危機管理	8
事故・災害などが発生した時の体制	8
異常時の運転規制	9
災害に備えた対策	11
震災への備え	13
コミュニケーション	14
現業・本社一体での問題点早期把握と情報の伝達	14
安全意識向上のための取り組み	15
事故・障害発生状況	16
事故・障害	16
事故・障害の発生状況	16
鉄道運転事故・インシデント・輸送障害等の事象	16
行政指導に対する措置の状況	18
鉄道の安全・安定輸送の確保について（警告）	18
処分書（東急電鉄に対する認定の取消処分について）	19
輸送の安全確保に向けて	20
設備とシステム	20
安全に関する設備投資	20
安全運行を守るシステム	20
施設の安全対策	22
ホームの安全対策	22
全駅へのホームドアなどの設置	24
駅構内の安全対策	24
車両・車内の安全対策	25
踏切の安全対策	26
地下区間の安全対策	27
高架下などの安全対策	27
運転時の安全対策	27
ワンマン運転時の安全対策	28
保守管理	29
定期的な確認・検査	29
人材育成	31
乗務員の養成と資質管理	31
安全をつくる意識向上と技術伝承	31
緊急事態に備えたさまざまな訓練	32
お客さまとともに	34
お客さまのさらなる安全に向けて	34
サービス介助士資格取得講座の実施	34
お客さまへのお声かけの取り組み	34
バリアフリーアプリの導入	34
感染症予防の取り組み	34
お客さまの声による改善	35
お客さまとのコミュニケーション	36
お客さまへの安全啓発	36
「東急線アプリ」での情報発信	37

本報告書は、鉄道事業法第十九条の四により公表が義務付けられた「安全報告書」として、東急電鉄の安全に関する情報を体系的に記載しています。

安全管理体制

社長を最高責任者として、安全統括管理者である鉄道事業本部長をはじめとする各管理者の責務を明確にし、安全最優先の企業文化醸成のために、継続的改善を推進する安全管理体制を構築しています。

安全管理体制

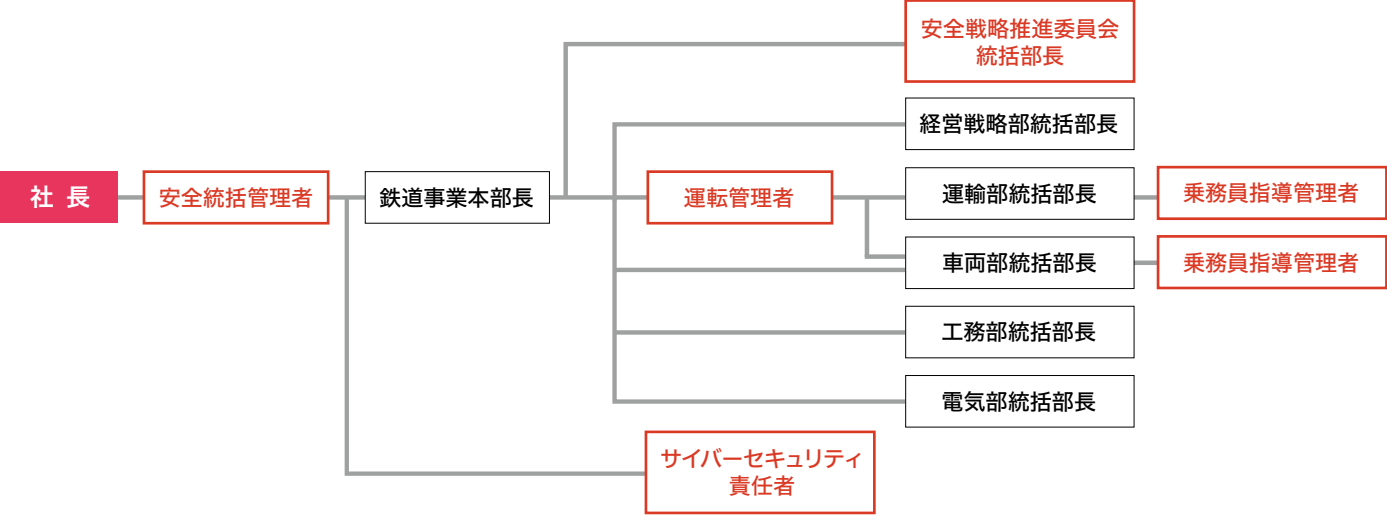
規程と体制

安全管理規程を制定し、それに基づいた体制を構築し輸送の安全確保に努めています。

● 安全管理規程

鉄道事業法に基づき、2006 年 10 月に安全管理規程を制定しました（2026 年 4 月 1 日改定）。安全管理規程では、安全に関する基本的な方針や安全管理体制、管理方法の他、社長・安全統括管理者・各責任者の責務などが定められています。輸送の安全確保は、安全管理規程を基本に各部門の実施規程が定められ、現場における作業手順へとつながっています。

▶ 安全管理体制図（2026年4月1日現在）



● 組織体制

鉄道事業本部の組織は、安全管理に関する専門部署「安全戦略推進委員会」を安全管理体制の事務局とし、鉄道事業の安全管理体制の強化、信頼性と事業継続性の向上を目的としています。

安全統括管理者、運転管理者は、鉄道事業法に定められた要件を満たす者の中から選出し、国に届け出ています。

安全統括管理者	安全戦略推進委員会統括部長	運転管理者	乗務員指導管理者	サイバーセキュリティ責任者
輸送の安全の確保に関する業務を統括管理する。従業員に対し、安全最優先の意識を徹底させる他、安全の確保に関する事業運営上の重要な決定に参画し、経営トップ等に必要な意見を述べる。	安全統括管理者の業務を補佐するため、輸送業務の実施および管理の方法を確認し、事故の再発防止対策等、安全性の向上を図る施策を推進する。	列車の運行管理、乗務員の資質管理等、運転に関する事項を管理する。	運転士および車掌の資質の保持に関する事項を管理する。	サイバーセキュリティの確保に必要な措置の検討に当たり、従業員、設備の状況その他の事項を総合的に勘案し、安全性および実現可能性の検証を行う。

安全管理の確認体制と方法

安全最優先の企業文化醸成のために、「PDCA サイクル」を確実に行っていくことで、継続的改善を推進する考え方を取り入れた形で、安全管理体制を構築しています。

▶安全管理体制の PDCA サイクル (スパイラルアップモデル)

Plan (計画)、Do (実施)、Check (点検・評価)、Act (改善) を繰り返すことで、安全管理業務を継続的に改善していきます。

Plan (計画)

過去の事例などにより安全管理に係わる計画を作成する。

Do (実施)

計画に沿って実施・実行する。

Check (点検・評価)

実施・実行した結果を点検・評価する。

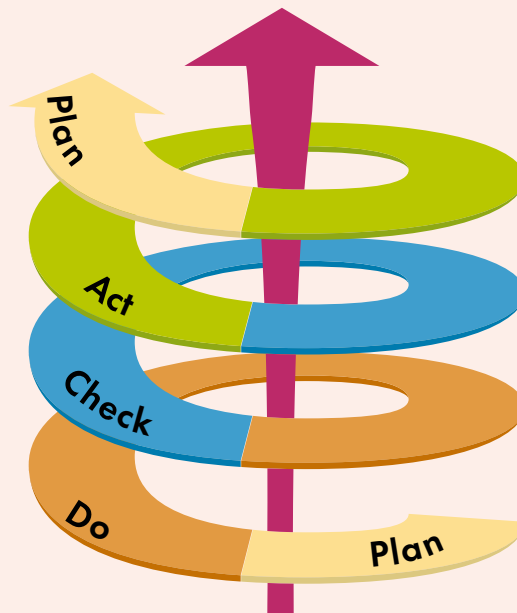
Act (改善)

点検・評価の結果を踏まえ、計画通り実施されなかった部分を改善する。

PDCA サイクルにより課題を把握し、レベルアップ



新たな課題と改善点を発見し、解決。さらにレベルアップ



● 経営会議・取締役会

発生した事故やその対策、事故防止のための安全対策工事等の進捗状況などを、社長、安全統括管理者、鉄道事業本部長をはじめとした経営陣が経営会議・取締役会で定期的に確認し、見直し・改善を図っています。

● 安全・事業推進会議

安全・事業推進会議を月に一度開催しています。会議には、安全統括管理者、鉄道事業本部長をはじめ各部門の責任者が出席し、輸送の安全を確保する方針・対策について、報告、審議するとともに、安全に関する情報を水平展開しています。

● 内部安全監査

安全の取り組みが、経営トップ、安全統括管理者、各部門で適切に機能していることを確認するために、安全戦略推進委員会が中心となって、内部安全監査を毎年実施しています。また、各部門でも定期的に部内監査を実施しており、これらの結果からも、安全管理体制の適切な見直し、改善を図っています。



内部安全監査の様子

危機管理

事故・災害などが発生した時の体制

事故・災害などが発生した場合に備え、警戒体制および復旧体制として、事故・災害の規模に応じて、特別体制、第1種（A）体制、第1種（B）体制、第2種体制、第3種体制の5つの体制を定めています。そのうち、特別体制、第1種（A）体制、第1種（B）体制が予想される場合は、事故・災害対策会議を実施します。会議内で必要と判断された場合は、事故・災害対策本部を設置し、情報伝達・通報系統の体制を構築します。

● 警戒体制および復旧体制の種別と発令基準例

特別体制、第1種（A）体制、第1種（B）体制が発令される具体的な基準例です。

▶ 特別体制

- 大雨、暴風、大雪、氾濫、高潮特別警報が発表されたとき
- 大雨、落雷、暴風、竜巻、大雪、浸水により、復旧に相当の日数を必要とする災害が発生したとき、または見込まれるとき

▶ 第1種（A）体制

- 震度5強以上の地震を観測したとき
- 地震による被害が軽微で早期復旧が可能であるとき
- 長時間の運行支障や営業停止が生じる事件、事故、その他の要因による事象が発生したとき、または見込まれるとき

▶ 第1種（B）体制

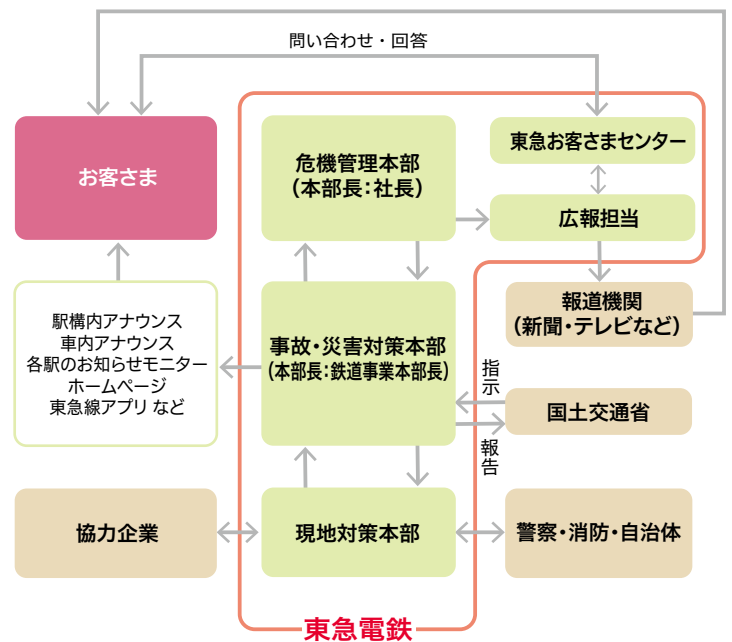
- 震度5弱の地震を観測したとき
- 運行支障や営業停止が生じる事件、事故、その他の要因による事象が発生したとき、または見込まれるとき

※地震発生時の震度は、当社線沿線地震計の観測値によります。

※大雨、暴風、大雪、氾濫、高潮については、気象庁や気象会社等の予測を基に事故・災害対策会議で体制発令の判断をします。

● 事故・災害発生時の情報伝達・通報系統

事故・災害が発生した際、お客さまへの情報発信、社内および関係箇所との連絡体制を構築しています。



● 設備故障時の復旧体制

設備が正常に動作するように、日々の点検整備を実施していますが、万が一設備故障が発生した時は早期に現場へ到着し復旧対応ができるよう、保守担当の事務所を東急線全線に分散配置する体制としています。

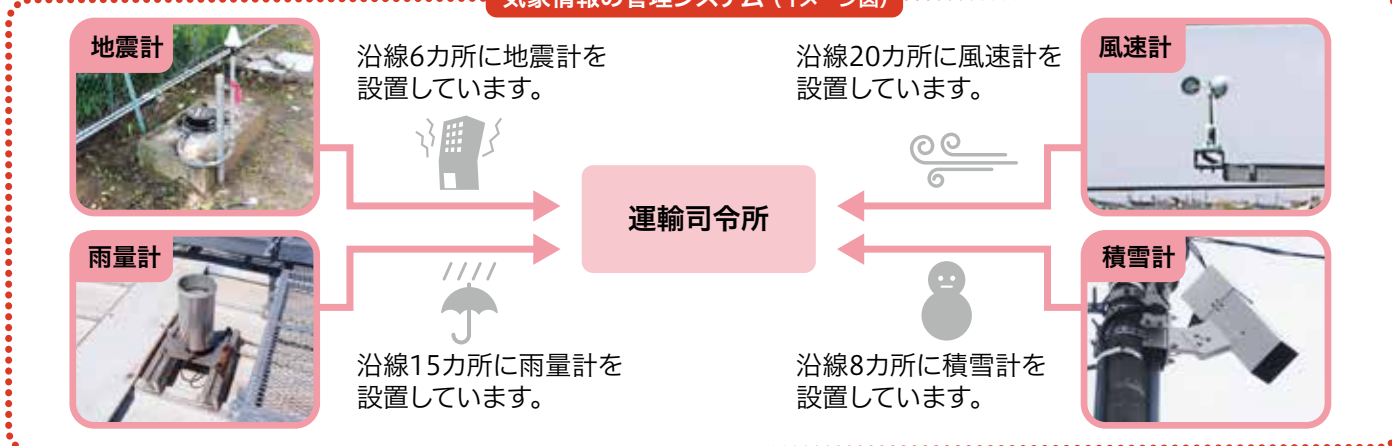
異常時の運転規制

輸送の安全を確保するため、日々気象情報等を収集し、自然災害に対するさまざまな対策を行っています。

● 気象情報システム

運輸司令所には、東急線沿線の気象情報等の集中監視システムがあります。東急線各所に設置した地震計や風速計、雨量計、積雪計の情報は運輸司令所に集約され、規程で定められた計測値により、運転中止を含む運転規制の指示や各部門へ警戒体制等を伝達します。

気象情報の管理システム（イメージ図）



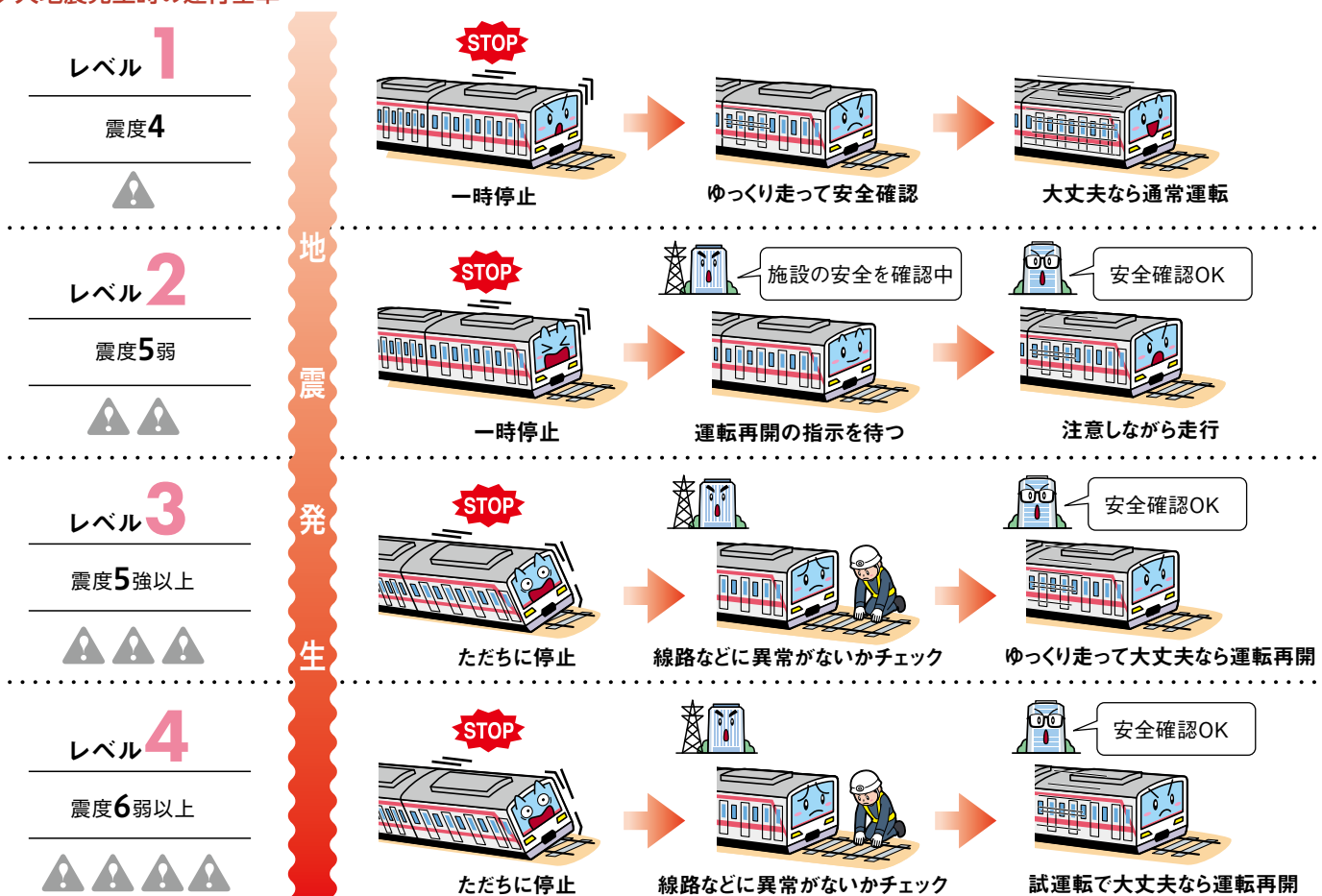
● 東急線の運行基準

悪天候時や地震が起きた際の安全確保のために、運行基準を設けています。速度を落とす、緊急停止、運転本数を減らす、運行を休止するなどの場合があります。



計画運休の実施：台風などの悪天候が見込まれる場合、運転規制による駅間での列車の長時間停車や、駅でのお客さまの滞留などの防止を目的に、あらかじめ運休を決定し、お知らせすることがあります。

▶ 大地震発生時の運行基準



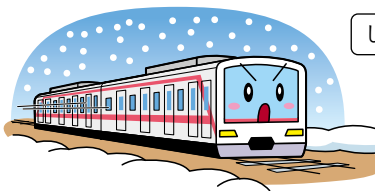
▶大雪時の運行基準

レベル 1

積雪が6cm以上で、
なお降り続く予想のとき



速度60km/h以下で運転



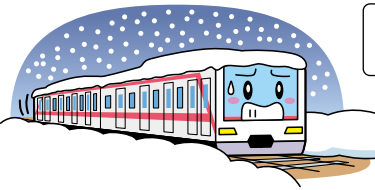
しばらく降り続きそう

レベル 2

積雪が11cm以上で、
なお降り続く予想のとき



速度40km/h以下で運転
(世田谷線は25km/h以下)



積もってきたな
さらに速度を落とそう

レベル 3

見通しが悪く、ブレーキに
余裕がないなど、運転の継続が
困難と判断したとき



運転を中止



見通しが悪いな

▶大雨時の運行基準

雨量が1時間で20mm以上に達し、なお降り続く場合、周辺に注意して運転します。

レベル 1

雨量が1時間で30mmまたは、
連続5時間で150mm以上に達し、
なお降り続く場合



計測された路線の
一部区間で
速度を落として運転



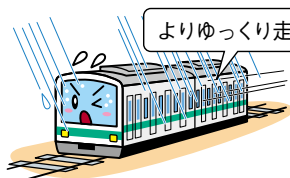
けっこう降ってるし
まだまだ降るから
ゆっくり走って安全確保

レベル 2

雨量が1時間で50mmまたは、
連続5時間で200mm以上に達し、
なお降り続く場合



計測された路線の一部区間で
さらに速度を落として運転



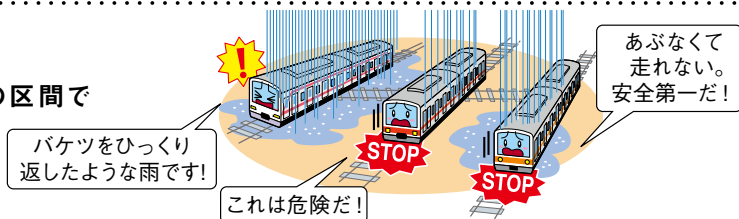
よりゆっくり走って安全確保

レベル 3

雨量が1時間で70mm以上または、
1時間で50mm以上かつ総雨量が
300mm以上に達し、なお降り続く場合



計測された路線の一部の区間で
運転を中止



バケツをひっくり
返したような雨です!

これは危険だ!

あぶなくて
走れない。
安全第一だ!

▶強風時の運行基準

レベル 1

風速20m/s



計測された路線の
一部区間で
速度を落として運転



警戒しながら走ります

レベル 2

風速25m/s



計測された区間で
一時運転を
見合わせ



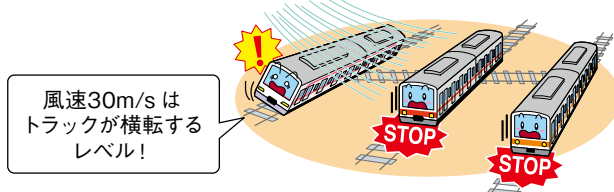
あぶないから様子をみます

レベル 3

風速30m/s



計測された路線で
運転を中止



風速30m/sは
トラックが横転する
レベル!

災害に備えた対策

● 地震対策

▶ 耐震補強工事の推進

当社所有の高架橋柱のうち耐震補強の優先度の高いものについては、2021 年度に補強が完了しています。また、2018 年度の耐震省令の改正により、新たに追加されたロッキング橋脚を有する橋梁の耐震補強工事は、2023 年度に完了しました。

現在、さらなる対策として災害時の安全性と復旧性の向上を目的とし、高架橋柱と擁壁の耐震補強工事を実施しています。



東横線・目黒線多摩川駅～新丸子駅間 高架橋補強工事前と工事後

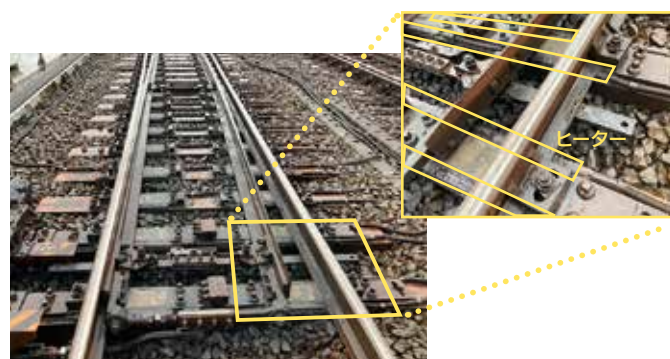


田園都市線用賀駅～二子玉川駅間 擁壁補強工事前と工事後

● 大雪対策

▶ 電気融雪器設置による安全対策

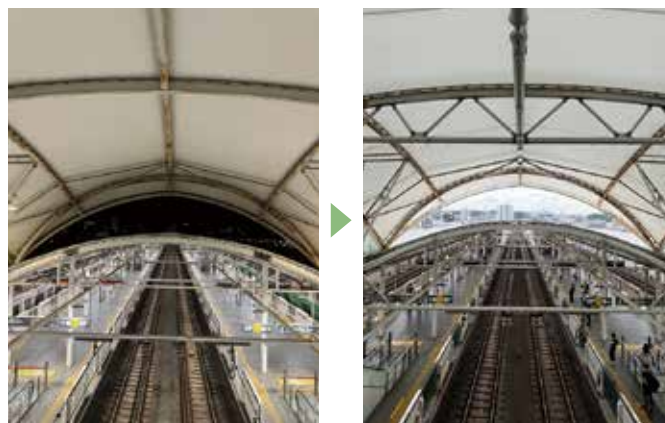
積雪や凍結によってポイント転換ができなくなることを防ぐ目的で、電気融雪器を全線に設置しています。



電気融雪器のヒーター部分

▶ ホーム上家の耐雪補強

ホーム上建物（ホーム上家）について、積雪時のさらなる安全性の向上を図るため、建築基準法に定められている積雪荷重以上の積雪にも耐えられるよう、耐雪補強を行っています。対象となる全 32 駅は、2023 年度末までに補強が完了しています。



東横線・目黒線元住吉駅ホーム上家耐雪補強工事 工事前と工事後

● 大雨対策

▶ 法面・擁壁補強による土砂災害対策

大雨時の土砂災害対策として、線路脇の斜面をコンクリートなどで補強する工事を推進しています。



対策前の法面（東横線綱島駅～大倉山駅間）



対策後の法面（同区間）

● 浸水対策

▶ 地下区間、電気設備の浸水対策

大雨時、屋外にある換気口・駅出入口から地下施設や各設備への浸水を防ぐため、換気口のかさ上げや止水板設置、防水扉への改修などの対策を行っています。



止水板設置前



止水板設置後



防水扉改修前



防水扉改修後

● 雷害対策

▶ 直撃雷への対策

東急線で過去に落雷被害が発生した箇所や、一般的に雷が発生しやすいとされる、一級河川とその前後の高架橋区間を対象として、避雷器増設・碍子保護装置と架空地線の設置を行っています。



避雷器



架空地線



碍子保護装置

▶ 誘導雷への対策

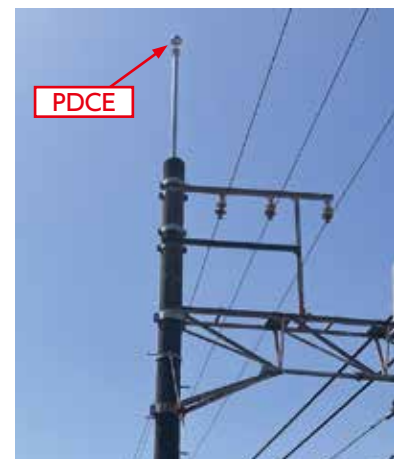
全ての電気機器（信号機器室、踏切設備、変電所など）に対し、電源側、機器それぞれに避雷器を設置し、誘導雷への対策を行っています。



避雷器

▶ 防雷設備の設置

鉄道施設への落雷を抑制するための防雷設備（PDCE）の設置を推進しています。



防雷設備 (PDCE)

広域停電対策

大規模蓄電システムの設置

2025 年度、田園都市線に電力を供給する市が尾変電所に大規模蓄電システム（出力：2.1MW、容量：10MWh）の設置工事が完了しました。2026 年度は運用開始に向けた最終調整として残る工事を進めます。

このシステムの導入により、大規模災害による広域停電時に、駅間に停止した列車に電力を供給して最寄り駅まで移動させたり、駅構内のエレベーターや照明に電力を供給して一時避難場所としての機能を維持したりするなど、より安心してご利用いただける鉄道を目指しています。



蓄電池



パワーコンディショナー

震災への備え

2011年3月11日に発生した東日本大震災を踏まえ、事業継続計画を構築するとともに構造物の耐震補強工事に取り組んでいます。

当社では原則、震度4以上の地震が発生した場合には、全列車を一旦停止させた上で、徐行運転や施設等の点検などにより安全を確認します。確実に安全を確保した上で、早期の運転再開ができるよう努めています。

また、大震災の影響を踏まえ、事業の継続力の向上によりお客さまの安全確保と災害に強い東急線を目指します。

● 事業継続計画（BCP）の継続的改善

大規模地震や災害発生時にお客さまの安全を確保することを優先とし、適切な避難誘導や正確かつ迅速な情報提供、早期の運転再開に資するように事業継続計画を構築しています。今後も減災対策の推進や災害を想定した訓練の実施により事業の継続力を高めています。

● 代替通信手段の導入

大規模災害の発生により、通常の通信手段が使用できなくなった場合に備え、「管内間電話」「衛星電話」「衛星通信」「監視庁緊急直通電話」を代替通信手段として導入しています。なお、衛星通信システムとして Starlink※を導入しています。
※ Starlink は SpaceX 社の登録商標です。



衛星通信システム（Starlink）

● 帰宅が困難なお客さまへの対応

大規模地震などの災害が発生した際、帰宅が困難になったお客さまへの対応として、保存食、簡易ブランケット、簡易トイレが全ての駅に確保されており、飲料水については、災害対応飲料自販機を設置しています。

また、一時滞在施設へ移動されるまでの一時的な待機場所として、点検が終了した駅構内の一部をお客さまに提供し、警察・消防と連携を図りながらお客さまの安全を確保できるよう努めます。その他、行政機関主催の災害対策会議などへ積極的に参加し連携を図っています。



保存食



簡易トイレ



簡易ブランケット



備蓄飲料水



災害対応飲料自販機

ディスプレイに記された「災害救援自販機」が目印

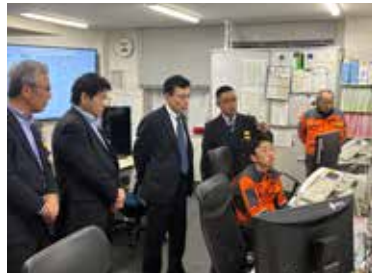
コミュニケーション

現業・本社一体での問題点早期把握と情報の伝達

問題点の把握や情報の収集・共有などについて、さまざまな取り組みを行っています。

● 現場巡視

社長をはじめ、経営陣が夏季および年末年始輸送安全総点検運動中に現場を巡視し、安全に関する取り組みを確認することで、経営陣と現場が一体となって問題解決に取り組んでいます。



現場巡視で安全の取り組みを聞く社長

● 意見交換会

社長や安全統括管理者などの管理者が全職場を訪問し、現場の従業員とリラックスした雰囲気ではばり意見を交換して、課題の改善につなげています。



現場の従業員と社長との意見交換会の様子

● 「安全情報モニター」の活用

事故情報やヒヤリ・ハット情報などの他、安全に役立つ情報を関係する従業員が確認することで、自身の事故・ミス防止につなげるための活用ツールとして、各職場や本社から「安全情報モニター」を用いて配信しています。



従業員が安全情報モニターを確認

● ヒヤリ・ハット情報の収集・共有

ヒヤリ・ハット情報（事故には至らなかったものの、ヒヤリとしたりハットとしたという情報）について、鉄道事業は各部門が連携することで成り立つという考えのもと、各部の取り組みを部門横断の取り組みにするため、ヒヤリ・ハットに関する担当学会を設置し、会議の中で共有された情報を、全社へ情報発信するとともに、定期的に経営陣に報告しています。

● 成功要因を考える取り組みの推進（Safety-II）

▶ 乗務職場の取り組み

事故やトラブルの分析に加え、現場で安全を支えている日々の工夫を収集しました。乗務員からは、ホーム上のお客さまの動きや階段からの足音などの小さな変化にも注意を払い、余裕を持ったドア操作を行っている事例が共有されました。また、車外マイクによる丁寧な案内を行うことで、お客さまが安心して乗降できる環境づくりにも取り組んでいます。これらの知見を組織全体で共有し、さらなる安全性向上につなげています。



▶ 技術職場の取り組み

従来からの「失敗を減らす」こと（Safety-I）に加えて「成功を増やす」ことを重視するものです。日頃の仕事から失敗をしないための「工夫や勘所」といった、上手くいっていることをもっと共有し生かしていく取り組みを推進し、これまでの失敗から学ぶことの他、上手くいくやり方を組み合わせ、さらなる安全な鉄道を目指します。



ボルトの打音点検。点検ハンマーの尾端を軽く握り微細な打音・振動の変化を感知して不具合を発見します。

安全意識向上のための取り組み

従業員一人ひとりの安全意識を向上するために、さまざまな取り組みを行っています。

● 安全共創館での研修

安全最優先で行動できる人材の育成を強化し、安全力のさらなる向上を目指すため、2021年12月に安全教育施設を開設しました。「安全を共に創り上げていく」という意味を込めて「安全共創館」という名称としました。

安全共創館では全社員を対象に過去の事故からの学びの研修を実施しており、2025年10月に発生した田園都市線梶が谷駅列車衝突事故をプログラムに加え、安全意識の醸成と、さらなる向上を図ります。



1 意識する

安全意識の啓発を行う



2 学習する

過去の事故の教訓を学習する



3 体感する

過去の事故の教訓を体感する



4 探求する

事故アーカイブを探求する



5 共創する

安全を共に創り上げていく文化を醸成する

● 安全かわら版

安全戦略推進委員会では、安全に関する取り組みとして「安全かわら版」を定期的に行っています。各号ごとに旬な情報を中心に各職場の安全に対する施策を紹介、事故の未然防止につながった“ファインプレー”などを全社および協力会社に共有し、安全に対する意識向上に努めています。



● 東急安全の日

2014年2月に発生した東横線元住吉駅列車衝突事故を風化させないために、社員一人ひとりが事故を振り返り、事故と向き合う場として、東急安全の日を開催しています。2026年2月に「第12回東急安全の日」を開催し、オンラインでの聴講を含め約1,200名が参加しました。福田社長および伊藤安全統括管理者より当社社員に向けたメッセージが発信されました。佐藤安全戦略推進委員会統括部長からは、2025年10月に発生した田園都市線梶が谷駅列車衝突事故を含めて、事故で得た教訓を生かし、これからの安全に対する意識、姿勢に関する講話が行われ、経営から現場第一線まで一丸となり、安全への決意を確認しました。

この他、東武鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社より講師をお招きし、同業他社における重大事故の教訓など、鉄道安全のさらなる向上に向けた取り組みに関する講演やトークセッションを行いました。



福田社長



東武鉄道(株)執行役員 鉄道事業本部 営業統括部長 池田直人様



東京地下鉄(株)鉄道本部 安全・技術部長 生方伸幸様



トークセッションの様子

※役職は、2026年2月時点のものです。

● 電気部安全の日

2017年11月15日に発生した田園都市線池尻大橋駅～駒沢大学駅間電車線停電事故など相次ぐトラブル事象を教訓として、「電気部安全の日」を定め、安全意識の向上と事故の風化防止に取り組んできました。

その後、2025年10月5日に発生させた田園都市線梶が谷駅構内での列車衝突事故は、社会的影響が極めて大きい重大事故であるとともに、その教訓をより一層重く受け止める必要があると認識しております。

そのため、これらの事故を決して風化させることなく、安全の重要性を再認識するための機会として、引き続き電気部安全の日を開催してまいります。



事故・障害発生状況

事故や障害を分析し、安全確保の取り組みにつなげています。不測の事故や障害が発生した場合には、原因を分析、追究し根本的な解決策を講じています。

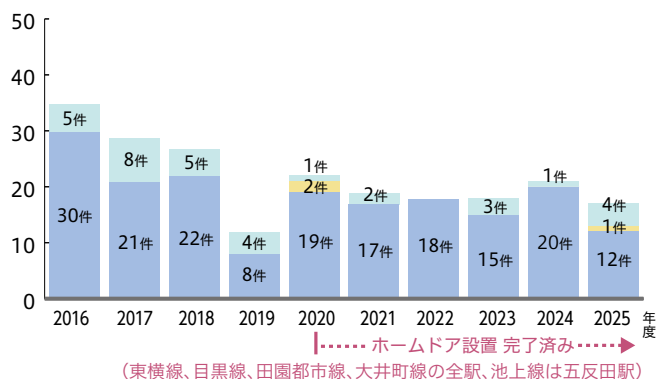
事故・障害

事故・障害の発生状況

列車運行の安全性を高めるため、保安設備の設置や保守点検作業の質の向上などを図っていますが、不測の事故や障害が発生することがあります。東急線全線で 2025 年度に発生した鉄道運転事故は 4 件、インシデント 1 件、輸送障害は 12 件でした。鉄道運転事故、インシデントについて、速やかに対策を講じるとともに、継続して事故再発防止に努めていきます。

● 鉄道運転事故、インシデント、輸送障害の件数

過去 10 年間に当社線で発生した鉄道運転事故、インシデント、輸送障害の件数です。



鉄道運転事故: 列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、道路障害事故、鉄道人身障害事故(列車または車両の運転によりお客さまの死傷を生じた事故)、鉄道物損事故に該当するもの。

インシデント: 鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態のこと。

輸送障害: 鉄道による輸送に障害を生じた事態(列車の運転を休止したもの、または30分以上の遅延を生じたもの)で、鉄道運転事故以外のもの。

鉄道運転事故・インシデント・輸送障害等の事象

【事象】 鉄道運転事故：田園都市線梶が谷駅構内における
列車衝突・脱線により車掌 1 名負傷

〈発生日時〉 2025 年 10 月 5 日(日) 23 時 4 分ごろ

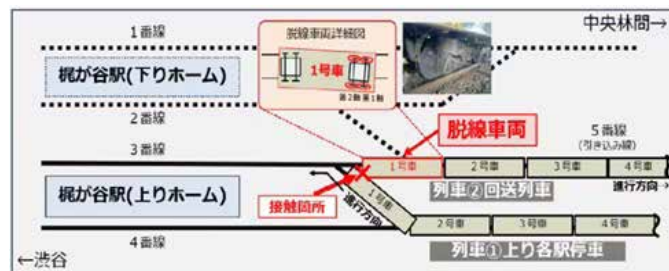
〈発生場所〉 田園都市線 梶が谷駅構内

〈運休本数〉 1,107 本

〈支障時分〉 24 時間 56 分



〈原因〉 信号システムの条件設定の不備により、列車②が 5 番線(引き込み線)に完全に入り切る前に、列車①が 3 番線に進行できる信号が出ていたため列車衝突に至った※



〈緊急対策〉 梶が谷駅を含む東急線全駅において、同様の事象の発生の有無について、現地とシステム設定状況の調査を実施した。梶が谷駅の他、2 駅(二子玉川駅、新横浜駅)にて条件不備を確認した。不備の発見後は、速やかに運行管理システムにより、常時停止信号現示とし、通過する際には司令員がダブルチェックを行った上で進行現示を取り扱う運用により安全を確保した。順次、信号プログラムを改修するとともに、再発防止に向けた取り組みを実施している。

事故に伴う改善措置に関する内容は、「行政指導に対する措置の状況」(p.18)に記載

※ 2026 年 7 月現在、国土交通省 運輸安全委員会による事故調査が継続しており、調査結果に応じ対策を見直す場合は、速やかに措置を講じる

【事象】鉄道運転事故：世田谷線車内の内倒しの窓ガラス破損・落下によりお客さま 1 名負傷

〈発生日時〉2025 年 7 月 13 日（日）15 時 11 分ごろ

〈発生場所〉世田谷線松陰神社前停留場構内

〈支障時分〉5 分

〈原因〉外的要因により傷がつき、車両の振動と歪みなどにより破損したと推定

〈緊急対策〉内倒し式窓ガラスに飛散防止フィルム貼り付け
ガラス脱落防止用ワイヤー取り付け

〈恒久対策〉世田谷線全車両の同種の窓ガラスにおいて、ガラスから窓枠付きのポリカーボネート製に変更



側面内倒し式窓ガラス



落下した窓ガラス

【事象】インシデント：大井町線九品仏駅（5号車のドアが、自動で開かない）においてドア誤開扉

〈発生日時〉2025 年 12 月 27 日（土）5 時 4 分ごろ

〈発生場所〉大井町線九品仏駅ホーム

〈運休本数〉2 本

〈支障時分〉18 分

〈原因〉自動ドア非扱い装置内継電器端子部において、5号車のドアを開ける回路と使用していない空き端子がショートしたため

〈対策〉継電器の使用していない空き端子に絶縁キャップを取り付け



自動ドア非扱い装置 継電器箱

【事象】輸送障害：局地的大雨による駅設備冠水被害

〈発生日時〉2025 年 9 月 11 日（木）午後

〈主な被害〉・目黒線西小山駅構内線路冠水

・踏切、線路、昇降機等冠水

・大井町線車両故障

〈影響路線〉目黒線、東急新横浜線、大井町線、池上線

〈運休時分〉目黒線 7 時間 17 分

東急新横浜線 2 時間 50 分

大井町線 3 時間 57 分

池上線 2 時間 53 分

〈対策〉設備浸水対策（重要設備かさ上げ・止水板・防水扉設置）非常用排水ポンプ・冠水対応資材の配備・車両被雷装置の点検強化



池上線戸越銀座駅 1 号踏切道冠水



目黒線西小山駅 線路冠水

行政指導に 対する 措置の状況

2025 年度の行政指導は 2 件でした。
いずれも、2025 年 10 月 5 日に発生させた
田園都市線 梶が谷駅列車衝突事故に伴うものです。
行政指導内容を厳粛に受け止め、
改善措置事項を確実に実施してまいります。

鉄道の安全・安定輸送の確保について（警告）

● 発出者

国土交通省 関東運輸局 鉄道部長

● 発出日

令和 7 年 10 月 6 日

● 警告内容

令和 7 年 10 月 5 日 23 時 04 分ころ、田園都市線 梶が谷駅構内において、走行中の列車が回送列車と衝突する列車衝突事故を発生させ、さらにその結果、田園都市線及び大井町線において長時間にわたり運転を休止し、利用者に多大な影響を与えたことは誠に遺憾である。

本事故の原因については、現在運輸安全委員会により調査中であるが、貴社においても背後要因を含めて原因の究明を行うとともに、同種事故の再発防止のための措置を講じ、鉄道の安全・安定輸送の確保に万全を期すよう警告する。

● 主な改善措置事項

（１）技術基準との適合性の確認方法の見直し ＜2026 年 6 月 1 日制定・運用開始＞

- ・連動装置設計に関する詳細な手順書とチェックシートを新たに作成し、設計実務者、検図・検算者、設計管理者がこれを用いて適合性を確認
- ・供用開始前に現地測量を実施し、信号条件設定の適合性を確認

（２）設計時の部門間調整方法の見直し ＜2026 年 6 月 1 日制定・運用開始＞

- ・設計確認時に使用している設計確認チェックシートに「運行形態と車両接触限界標の位置・絶縁継目の位置を部門間で確認する」項目を追加
- ・設計部門間での調整時に「位置の見える化した図面」を作成し、信号担当・保線担当合同で適正である事を確認
- ・設計管理者は設計部門間調整結果が設計に正しく反映しているか確認

（３）設計に関する組織的な確認体制の構築 ＜2026 年 1 月 会議体より継続実施＞

- ・「設計検討委員会」を新たに設置し、列車運行の安全確保に関わる設計案件について業務統括管理者、設計管理者（全部門）、運転管理者で組織的に確認するとともに、設計確認完了前に組織横断的に技術基準適合の確認を行う体制を構築する

（４）風化防止のための継続的な教育 ＜2025 年 10 月 20 日より実施＞

- ・今回の事故を風化させないため、継続的に教育を実施する

処分書（東急電鉄に対する認定の取消処分について）

● 発出者

国土交通省 国土交通大臣

● 発出日

令和 7 年 12 月 23 日

● 処分内容

鉄道電気施設の設計に関する業務において、技術基準に適合しない信号保安設備を設計確認し、施設を改修したことにより、列車衝突事故を誘発した事実が確認された。

このことは、鉄道事業法施行規則の規定に違反すると認められるため、貴社に行った鉄道事業法の規定に基づく認定[※]のうち、鉄道電気施設の設計に関する業務に係る認定については、同法及び同規則の規定に基づき取り消す。

※国が行う鉄道事業に関する許認可について、鉄道施設・車両の設計確認や竣工確認を、認定を受けた鉄道事業者自らが適切に実施することにより、安全性を確保しつつも、国への手続きを簡略化する制度です。

当社は、2001 年 12 月より鉄道土木施設、鉄道電気施設、車両の 3 部門において 一般認定を取得しており、今回はこのうち鉄道電気施設の一般認定が取消となりました。

● 主な改善措置事項

- (1) 令和 7 年 10 月 6 日付け「鉄道の安全・安定輸送の確保について（警告）」に関する改善措置事項の着実な遂行による設計品質の向上
- (2) 認定の再取得に向け、鉄道施設の設計と竣工確認に関する業務の継続的な改善（PDCA サイクル）を行い、定期的な評価・見直しにより設計品質と安全性を持続的に進化させる



施設の安全対策

ホームの安全対策

① 非常停止ボタン



非常停止ボタン

列車との接触事故を防ぐため、東急線 83 駅のホームに非常停止ボタンを設置しています。ボタンを操作すると、付近を走行する列車は異常を知らせる信号を受信し、運転士は列車を緊急停止させます。お客さまはボタンを操作しても絶対に線路へ降りないでください。



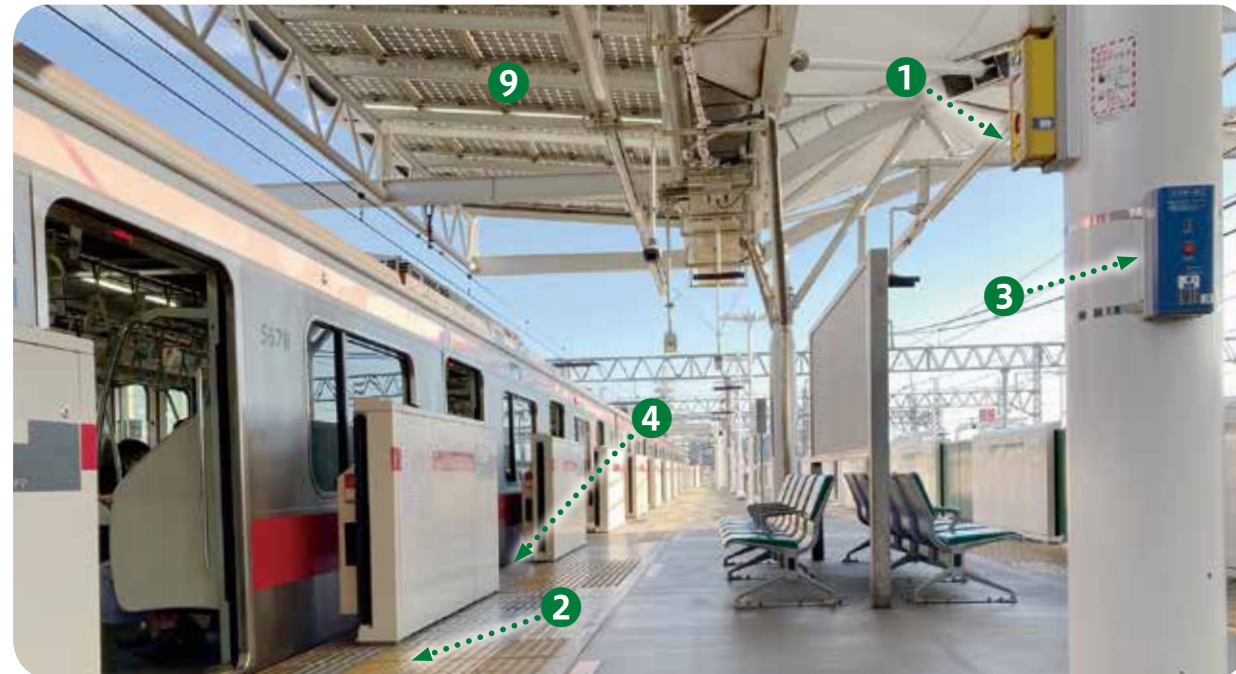
もしも線路に人が転落したら、非常停止ボタンを押して通報してください。

② 点状ブロック



内方線付き点状ブロック

目の不自由なお客さまに安心してご利用いただけるよう、ホーム上に点状ブロックを設置しています。また、池上線（五反田駅除く）・東急多摩川線のセンサー付固定式ホーム柵設置駅は、ホームの内側を示す内方線を整備しています。



③ 駅係員よびだしインターホン・防犯ボタン



駅係員よびだしインターホン



防犯ボタン

駅係員、警備員によるお手伝いが必要となった際に通報いただける、駅係員よびだしインターホンや防犯ボタンを、ホーム上やトイレに設置しています（押しても列車は止まりません）。



駅構内で不審物や不審者を発見した時や、トラブル発生時、また具合が悪そうなお客さまを見かけた際などに押してください。

④ ホーム先端部塗装



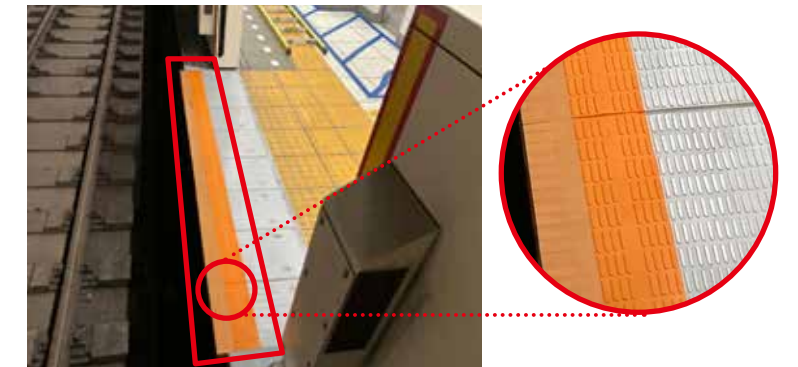
ホームの先端部をオレンジ色に塗装し、線路転落や、ホームと列車との隙間への転落を防ぐため、お客さまへの注意喚起を行っています。

⑤ ホームドア



お客さまがホームから転落したり、列車と接触したりする事故を防止するため、東横線・目黒線・東急新横浜線・田園都市線・大井町線の全駅と池上線五反田駅にホームドアを設置しています。また、池上線（五反田駅除く）・東急多摩川線の全駅には、センサー付固定式ホーム柵を設置しています。

⑥ 転落防止ゴム



お客さまが足を踏み外してホームと列車との隙間に転落しないように、ホームの側面に隙間を狭めるための転落防止ゴムの設置を順次進めています。また、ホームに足元注意ステッカーの表示を行っています。



⑦ 隙間転落注意喚起サイン



過去に、ホームと列車との隙間への転落が発生している箇所やその周囲に「こども隙間転落防止プロジェクト」のオリジナルキャラクター「スキマモリ」のサインを貼り付け、注意喚起を行っています。（p.36「こども隙間転落防止プロジェクト」参照）

⑧ 転落報知器

ホームの下に転落報知器を設置しています。万が一お客さまがホームと列車との隙間から転落すると、センサーが作動し駅係員や乗務員に警報音で知らせます。

⑨ ホーム上家のふき替え

駅ご利用のお客さま、および列車運行の安全確保のため、老朽化したホーム上家のふき替えを計画的に実施しています。



施工前



施工後

全駅へのホームドアなどの設置

東急線全駅※へのホームドア、またはセンサー付固定式ホーム柵の設置を 2019 年度に完了し、ホーム上の安全性向上、安定運行に大きく寄与しています。

※世田谷線・こどもの国線を除く

●安全にご利用いただくための、お客さまへのお願い

より安全にホームドアをご利用いただくために、お客さまへのお願いや注意喚起を、さまざまな形で行っています。

ホームドアから身を乗り出したり、ホームドアに物を立て掛けたりすることによる事故などを防止するため、注意事項をステッカーにして貼付し、お願いと呼びかけを行っています。



ホームドアの注意事項ステッカー

●非常用設備の明示

お客さまに日ごろから、非常用設備を認識していただけるよう、国土交通省のガイドラインに沿ったピクトグラムの明示をしています。



非常用設備の明示

安全MEMO

電車のドアに手やかばんをはさんでも、ドアは自動では開きません。ケガをされる可能性があり大変危険です。
かけこみ乗車はおやめください。



駅構内の安全対策

お客さまに安心してご利用いただけるよう、さまざまな対策を行っています。

●防犯カメラ

駅構内の状況確認や犯罪抑止を目的として、ホーム、改札口、券売機、定期券うりばなどに防犯カメラを設置しています。



駅構内の防犯カメラ

●エスカレーターの安全対策

エスカレーターは、異常時に緊急停止をする場合があります。停止時のお客さまの転倒やつまずきなどの事故を低減することを目的として、エスカレーターを緩やかに停止させる改修を、順次行っています。



●駅天井改修工事

駅構内天井の安全性向上のため、耐久性・耐震性に優れた天井材への改修を、計画的に実施しています。



●駅係員、警備員などによる安全確認

日ごろから、定期的に駅係員および警備員などが駅構内を巡回し、不審物、施設の不備などお客さまに危険がおよぶ箇所がないか、確認、警備を実施しています。

また、お客さまの流れの変化などに対応し、警備体制の見直しを行っています。

駅構内の総合案内板、駅構内図や駅周辺案内図などの掲示物については、落下を未然に防ぎ、お客さまの安全を確保するため、定期的に目視と触手による点検を実施しています。



駅構内の巡回



駅構内の掲示物

車両・車内の安全対策

お客さまに安心してご乗車いただけるよう、さまざまな安全対策を行っています。

● 車内防犯カメラ

LED蛍光灯一体型の防犯カメラを当社が保有する全ての車両に導入しています。運輸司令所からでも映像を確認することが可能です。全車両への導入を通して、車両内のセキュリティ向上および車両内トラブル発生時の対応の迅速化を図っています。



カメラユニット

● 引き込まれを防止する ドア素材

2020系、3020系、6020系などの新造車両には、ドア自体にすべる素材を採用しており、開扉時の引き込まれを防止しています。また、引き込まれに加え、乗降時のはさまれも防止するため、乗降口端部と戸先を容易に認識できる黄色いラインの注意喚起シールも貼付しています。



● ドア引き込まれ 注意喚起ステッカー

ステンレス製のドアには、すべる素材を使用した車内ステッカーを貼付しており、イラストによる注意喚起も実施しています。



● ガラス破損のリスク低減策

車両ドアは、ドアガラス破損防止のため強化ガラスおよび複層ガラスを使用しています。また、一部の車両には割れたガラスが飛散しないように透明の飛散防止フィルムを貼り付けて安全性向上を図っています。

夏場の遮熱、冬場の断熱にも高い効果のあるフィルムを使用しており、空調消費電力量を削減し省エネ効果もあげています。



飛散防止フィルム

● 車内非常通報ボタン

具合の悪いお客さまや車内の異常を乗務員に知らせる装置で、車両連結部付近や窓の横、車いすスペースに設置しています（位置は車両により異なります）。

※大井町線の一部車両を除き、各車両から乗務員と通話することができます。



ご乗車中、周囲で具合の悪いお客さまがいらっしゃる場合や、車内で異常が発生した場合に押してください。

● 緊急ブレーキ装置

万が一、運転士の体調が急変したときに安全を確保するため、ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキがかかる装置を全車両に搭載しています。

● 誤開扉防止策・列車の転動防止策

列車が走行中、もしくは動き出した後に扉が開くことがないように、誤開扉防止策と列車の転動防止策の2つの対策を行っています。

誤開扉防止策とは、「列車の発車直後に誤ってドアを開ける操作をしてもドアが開かない仕組み」で、当社が保有する全ての車両に導入しています。

列車の転動防止策とは、「ドアが開いた状態で運転士が誤ってブレーキを緩めてしまった際に列車が転動しない仕組み」で、当社が保有する全ての車両※に導入しています。

※こどもの国線を除く

安全MEMO

プライバシー保護対策

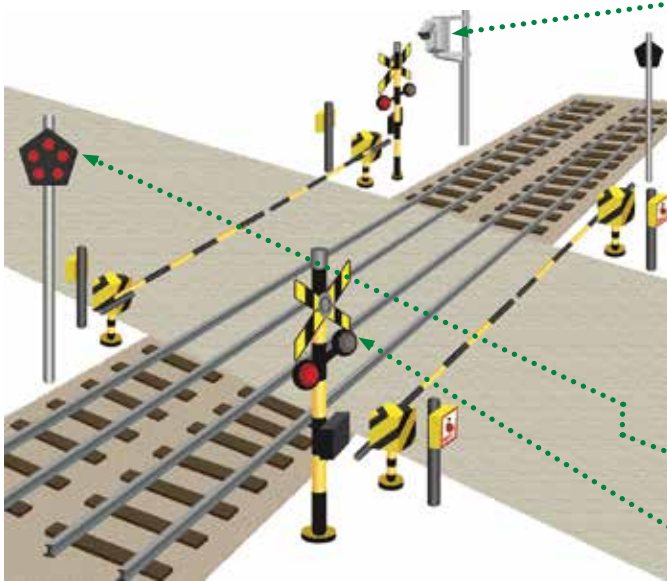
防犯カメラなどで取得した記録映像などのデータについて、AIによる画像解析技術を活用し、施設内の安全確保と不審行動の早期検知に取り組んでいます。

撮影した映像データに含まれる個人情報、当社の個人情報保護ポリシーに従って適切かつ厳正に取り扱っています。



踏切の安全対策

踏切での事故を防ぐために、さまざまな対策を行っています。



踏切監視カメラ

踏切事故の抑止手段、事故発生時の状況確認手段を確立する必要性が高まっていることから、全線※で踏切監視カメラを設置しています。

※こどもの国線を除く



非常ボタン



踏切内に人や車が立ち往生してしまったときなど緊急の場合に、非常ボタンを押すと、特殊信号発光機が赤く点滅して接近する列車の運転士に異常を知らせます。全ての踏切に設置しています。

特殊信号発光機



また、東横線・目黒線・大井町線・こどもの国線では、ATCと連動しているため、接近する列車を自動的に減速させます（田園都市線・東急新横浜線には踏切はありません）。

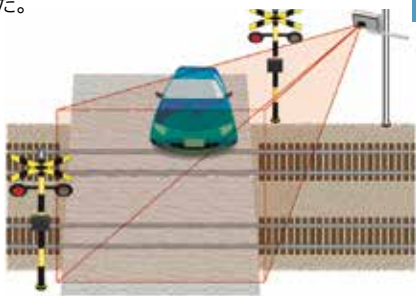
3D式、光線式踏切障害物検知装置

踏切障害物検知装置は、自動車などが踏切で立ち往生した場合にセンサーが検知し、接近する列車の運転士に異常を知らせる信号を送る装置です。当社では、2021年7月に自動車通行禁止の踏切を含む全134カ所の踏切※に設置を完了しました。

※世田谷線・こどもの国線を除く

▶3D式踏切障害物検知装置の導入

当社では、障害物の検知精度が高い3Dセンサーを使用した装置を2026年3月に世田谷線とこどもの国線を除く全ての踏切に設置を完了しました。



3D式踏切障害物検知装置の検知イメージ



非常ボタンは、踏切内に人や車などが立ち往生しているなど緊急の場合に押してください。

警報灯

通行する車や人が踏切から一定の距離以上離れていても視認できるように警報灯を設置しています。視認性の向上施策として、車のドライバーから見えやすい全方位警報灯を一部の踏切道に導入しています。



全方位警報灯

●踏切除却に向けた連続立体交差事業

大井町線戸越公園駅付近には6カ所の踏切があり、全ての踏切が、ピーク時の遮断時間が40分以上となる、いわゆる「開かずの踏切」になっています。

本事業は、これらの踏切を除却するため、戸越公園駅付近の約0.9kmの区間を高架化するもので、東京都が施行する都市計画事業として2026年2月に都市計画事業認可を取得しました。

各種説明会を実施するなど、工事着手に向け関係自治体と連携していきます。



戸越公園駅前

地下区間の安全対策

列車が地下トンネル区間で緊急停止した際、安全に避難できるように対策を行っています。

● トンネル照明の設置

お客さまが避難のためにトンネル内を歩行する際、足元を確認しやすいようトンネル区間全てに照明を設置しています。



トンネル照明

● 蓄光式避難誘導看板

トンネル区間において、蓄光式の避難誘導看板を設置しています。これにより異常発生時に照度が限られた状況においても隣駅までの距離が分かり、お客さまを安全に駅まで誘導できます。



蓄光式避難誘導看板

〈設置区間〉

東横線：渋谷駅～代官山駅間、東白楽駅～横浜駅間

目黒線：目黒駅～洗足駅間

東急新横浜線：新横浜駅～日吉駅間

田園都市線：渋谷駅～二子玉川駅間、つきみ野駅～中央林間駅間

池上線：戸越銀座駅～旗の台駅間

東急多摩川線：多摩川駅付近～沼部駅間

● 地下駅での老朽施設更新

開業後 45 年以上が経過した田園都市線地下区間の 5 駅（池尻大橋駅・三軒茶屋駅・駒沢大学駅・桜新町駅・用賀駅）で老朽設備の更新など安全・安心の向上を目的としたリニューアル工事を推進中です。



第 1 弾となる駒沢大学駅は 2024 年度末に完了し、第 2 弾となる桜新町駅も 2023 年 5 月に着工、2026 年度秋頃の完成を目指しています。空調設備の増強・改修を行うなど、駅構内の快適性向上も推進しています。

● 地下駅の安全対策

国土交通省の基準に基づき、2 通路以上の避難通路の確保や、火災時におけるホーム階の排煙のための非常電源設備の設置などの対策を、全ての地下駅で実施済みです。

また、停電に備えて非常用発電機を設置しており、トンネル内を含めた非常照明や駅放送設備など、防災上必要な機能が確保されています。



避難通路（非常口のご案内）の表示を大きく分かりやすくしました



高架下などの安全対策

● 架道橋監視カメラの設置

高さが低く自動車が接触しやすい架道橋には、異常時の現地状況の早期把握と対応の迅速化を目的として、監視カメラを設置しています。



架道橋監視カメラ



監視カメラの映像

● 高架下監視カメラの設置

鉄道高架下の防犯体制の強化と、事件・事故の早期発見・犯罪の抑止効果を目的として、鉄道高架下に防犯カメラを設置しています。

運転時の安全対策

● 耐刃手袋の車両搭載

粗暴犯対応時における安全確保および職員の負傷防止を目的として、耐刃手袋を各車両に搭載しました。これにより、刃物などによる危害が想定される場面においても、手指の保護が可能となります。

導入効果は以下のとおりです。

- ① 刃物などによる傷害リスクの低減
- ② 対応時の安全性向上および職員の不安軽減



耐刃手袋

● 消火用ブランケットの車両搭載

近年増加しているモバイルバッテリーの発火・発煙事案への対応強化を目的として、消火用ブランケット（ファイヤーブランケット）を各車両に搭載しました。本備品は、初期段階に発火物を覆うことで火勢を抑え、被害の拡大を防止するものです。導入効果は以下のとおりです。

- ① 発火・発煙の拡大防止による二次被害の抑制
- ② 初動対応時における安全性向上と冷静な対応支援



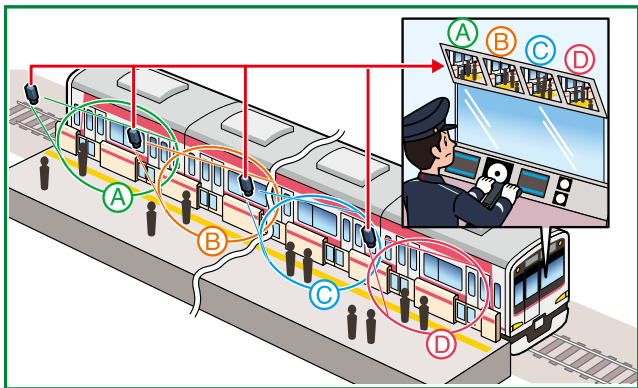
ファイヤーブランケット

ワンマン運転時の安全対策

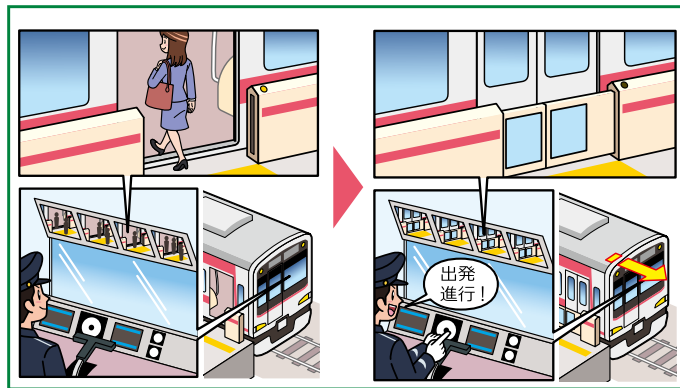
東急線では、東横線・目黒線・東急新横浜線・池上線・東急多摩川線でワンマン運転を実施しています。ワンマン運転時も安全に運行できるよう、ホームドアなどの設備の他、もしもの時の応援体制の構築など、安全対策に取り組んでいます。

●乗降確認モニターの設置

運転席にお客さまの乗降を確認できるモニターを設置しています。



ホームに設置したカメラでお客さまの乗降を撮影し、運転席のモニターに投影



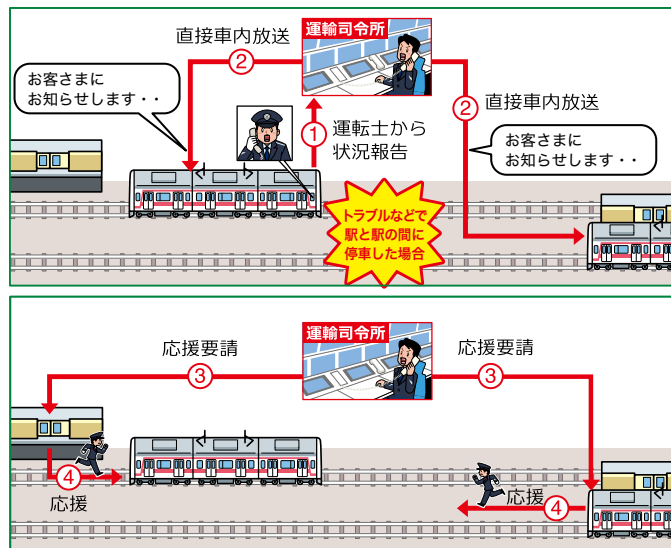
運転士がモニターを確認。ドアを開閉

●車内・運転士・運輸司令所の連携



車内のお客さまが「車内非常通報ボタン（1車両に1～4カ所設置）を押すと、運転士が応答します。運転士が応答できない場合は、運輸司令所に自動で転送され、運輸司令所の司令員が応答します。

●運輸司令所からの車内放送と応援者要請



異常時、やむを得ず駅と駅の間に停車した場合、運転士または運輸司令所から車内放送で状況をお知らせします。

避難誘導が必要な場合には、運輸司令所が応援要請を行い、最寄り駅などから応援者が駆け付けます。また、必要に応じて、運輸司令所から警察、消防に対応を依頼します。

保守管理

定期的な確認・検査

法令等で定められた基準を基に作成した社内規程に従い、設備等の保守管理を行っています。

● 線路の保守

レールの交換はミリ単位の高度な技術が求められる精密で重要な作業です。日々多くの列車運行により、繰り返し荷重を受けるレールは、超音波探傷や巡視による目視確認等さまざまな検査を行っており、計画的に交換を実施し安全運行を確保しています。



超音波レール探傷車



レール切断作業

● 車両の保守

元住吉、長津田、雪が谷大塚、上町にある検査・修繕施設で、車両の使用状況に応じて定期的に車両の検査を行っています。また、4年に一度、長津田車両工場で車両を分解して、検査・メンテナンスを行っています。各機器の異常の有無やブレーキの効き具合、台車・車軸・連結器の探傷試験、車輪の摩耗など、走行に関する全てを確認しています。



車両を制御する運転台点検



車両床下の点検

● 電気設備の保守

電気設備は、列車や駅で使われる電力を送るための変電所や架線・高圧配電線、明るくきれいな照明や多機能な案内装置、お客さまと列車の安全を守る保安装置や列車無線、ホームドアなど多岐にわたり、使われている技術も多様なため、各設備を専門とする技術者により点検整備を行っています。



軌陸車を使用した架線設備点検



ポイント(転つ機)の検査

● 構造物・建築物等の検査

高架橋・トンネル等の土木構造物、駅舎・屋根等の建築物について、目視や打音等により定期的に検査を行い、落下リスク等の低減に努めています。検査結果はデータベース化して、維持管理に役立てています。火災時にお客さまの安全を守るための消防設備・換気設備や、駅を快適にご利用いただくための空調設備・昇降機設備等についても定期的に検査を行い、安定運用の維持に努めています。



構造物の検査

▶ 空間データ活用について

レーザースキャナによる3次元点群データと高解像度カメラの画像データを取得・解析することにより、列車が安全に走行できる空間の確保や構造物の維持管理に役立てていきます。



取得した3次元点群データの事例



計測車両

● 高所外壁改修工事

お客さまの安全、また列車運行の安全確保のため、老朽化した高所外壁の改修を計画的に実施しています。



新丸子駅高所外壁改修工事前と工事後

● 構造物の長寿命化対策

構築以来数十年を経過した構造物（高架橋、トンネルなど）に対し詳細調査を実施し、予防保全を目的とした工事を順次行っています。



長寿命化対策前



長寿命化対策後

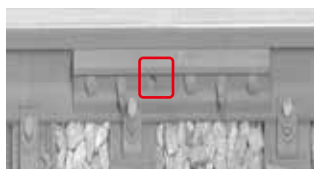
● データ活用・分析による保守の高度化

東横線、目黒線、東急新横浜線、田園都市線において線路設備モニタリング装置を導入し、営業列車に搭載することで、高頻度に線路状態のデータを取得することができ、線路の悪化傾向を高頻度で事前に把握し、最適なタイミングでメンテナンスを実施することが可能となりました。また、取得したデータの有効活用に向けて、鉄道7社（小田急電鉄・埼玉高速鉄道・相模鉄道・東急電鉄・東京メトロ・東武鉄道・JR東日本）で共通使用できる保線管理システム「Ramos + ®」を共同で使用します。

これにより各社が使用しているアプリなどを共有して使用することが可能となり、開発費の削減に加えて、メンテナンスの生産性を向上することで、鉄道業界全体におけるメンテナンス技術の発展が期待できます。



線路設備モニタリング装置

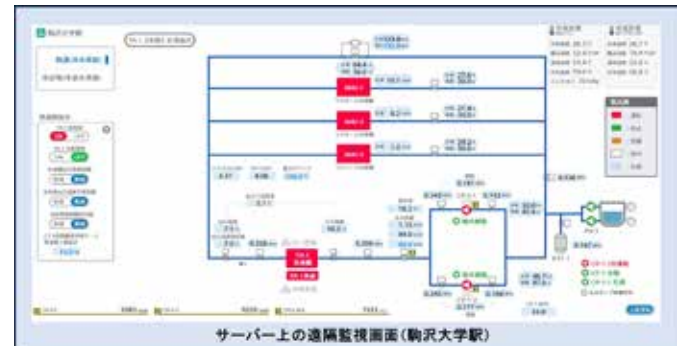


カメラ（静止画）によるボルトなどの抜けを検出

● 保守業務の高度化

大規模な空調換気設備を有する駒沢大学駅他5駅にクラウド型遠隔監視システム「クラウドSCADA」を導入しています。

軽微な故障の遠隔対応が可能となった他、消費電力量や故障履歴を蓄積し、データの見える化を実現することでCBM（Condition Based Maintenance）に向けた分析を開始し、データ活用・分析による保守業務の高度化に取り組んでいます。



遠隔監視画面（駒沢大学駅）

● 検査ロボットの導入による技術検証

四足歩行ロボット「Spot」を導入し、点検・検査業務の高度化・効率化へ向けた技術検証を2025年4月から開始しました。Spotは国内鉄道業界初の本格的な導入であり、搭載されたカメラやセンサーを用いて設備の状態を把握します。元住吉駅周辺の変電所・車庫での検査を皮切りに、将来的には対象業務の拡大、AI画像解析システムの活用などにより、点検頻度・時期を適正化し故障を未然に防止することを目指します。



四足歩行ロボット「Spot」

安全MEMO

サイバーセキュリティ対策

サイバーセキュリティ関連の課題認識とリスク評価を行い、日々進化する攻撃手法に対応できるよう、技術的、物理的な対策強化を適時行っています。



人材育成

乗務員の養成と資質管理

当社には、国土交通省の指定を受けた養成所として「鉄道研修センター」があり、ここで多くの運転士・車掌を養成してきました。今後も、お客さまの「安心」「信頼」のために、「安全」を守る乗務員の養成に全力で取り組んでまいります。

● 運転士・車掌の養成

運転士・車掌の養成は、「鉄道研修センター」で所定の学科を学んだ後、各乗務職場に配属され指導運転士・指導車掌のもとマンツーマンで乗務しながら技能を習得していきます。



運転シミュレーターを使った訓練



現車乗務員室を使った訓練



運転士養成における現車訓練

● 乗務員の体調管理

乗務員の体調管理の充実を図るため、疲労回復を目的として一部の乗務職場に酸素ボックスを導入しました。日常的な業務による疲労の軽減をサポートし、良好なコンディションの維持に役立っています。



酸素ボックスを導入

● 協力会社への教育

工事を共に実施する協力企業に対しても、定期的に教育を実施しています。

安全研修会では鉄道工事の特徴を踏まえた安全教育、また安全に関する各社の取り組みの共有などにより、安全意識の向上を図っています。



安全研修会での安全講話

安全をつくる意識向上と技術伝承

現場での作業における安全意識向上に向けた取り組みや、設備や施設のメンテナンス作業などに必要な技術を伝承するための取り組みを行っています。

● 危険体感研修

危険体感研修は、墜落制止用器具（安全帯）の装着や高所歩行、高所からの工具落下や感電などの体験をすることを通じて、作業上発生しうる危険なポイントを伝える訓練です。経験の浅い若手社員に対し、事故防止の意識向上を図るために実施しています。



墜落制止用器具（安全帯）を装着した疑似体験の様子

● 訓練・競技会

技術部門では、設備の更新に伴う機器の性能向上により、部品などの故障や劣化、取り替えが少なくなっている現状を踏まえ、組織の技術力・異常時対応力の強化やベテランから若手への技術伝承、従業員のモチベーション向上などを目的として、訓練や競技会を定期的に行っています。



電気部門での軌道カート運転訓練



工務部門での緊急時の列車防護訓練：列車見張員による運転士へ緊急停止を合図する訓練



車両部門での技能競技会：床下装置不良箇所修復作業



電気部門での技能競技会：電車線の張り替え作業

緊急事態に備えたさまざまな訓練

万が一、不測の事態が発生したときには、冷静かつ迅速・的確に事故の処理ができるよう、日ごろからさまざまな訓練を行っています。

● 運転事故総合訓練

毎年1回、鉄道事故が発生した際の併発事故の防止、負傷者の救護、関係部署への連絡通報、お客さまの避難誘導、復旧作業などを迅速、確実にを行うために「運転事故総合訓練」を実施しています。2025年度は2026年3月5日に現場での処置対応を長津田検車区の車庫内で実施し、社長、安全統括管理者をはじめ鉄道事業本部の各部門、約350名が参加しました。



各部と連携したお客さま避難誘導



事故車両の脱線復旧作業



工務部による線路復旧作業



電気部による架線復旧対応

● 異常時運転取扱訓練

春と秋の年2回、職場ごとに「異常時運転取扱訓練」を実施しています。駅係員は、対向列車や後続列車を緊急に停止させる列車防護、ポイントが故障した場合を想定した手動操作、ホーム案内時の列車緊急停止合図などの訓練を行っています。

また運転士と車掌は、列車防護、負傷者の救護、運輸司令所への連絡通報、お客さまの避難誘導などの訓練を行っています。



ポイント故障時の手回し訓練



信号炎管を使用した列車緊急停止訓練

● 事故・災害対策本部設置・初動対応訓練

万が一の事故・災害発生時に迅速かつ適切に対応ができるよう、対策本部の設置と初動対応の訓練を、有事の際に指揮者となる管理職を中心に、定期的の実施しています。



災害を想定した情報伝達訓練



電気やインターネット通信が利用できない環境を想定した初動訓練

● サイバーセキュリティ事故発生時の対応訓練

2025年11月25日、複雑化・巧妙化するサイバー攻撃に対応するため訓練を実施しました。

サイバーセキュリティ事故発生時の対応手順やお客さまへの影響を最小限に抑えるための方法について再確認しました。



本社でのサイバーセキュリティ事故発生時の対応訓練

安全MEMO

異常時用名札ワッペン

従業員が、通勤時など当社線を利用中に事故や災害に遭遇した際には、この「名札ワッペン」を左胸などに貼り付け支援活動を行います。お客さまや外部の関係者に対して支援者が当社の従業員であることを明示し、円滑な支援活動ができるよう備えています。



● 警察・消防都の連携

社内の定期的な訓練だけでなく、警察署や消防署と連携したお客さまの避難誘導などの訓練を職場単位で実施しています。

① 人身事故対応合同訓練（鷺沼車庫）

- 実施日：2026 年 2 月 12 日
- 場 所：鷺沼車庫内
- 目 的：人身事故発生時の救護・避難誘導対応確認および消防との連携強化
- 概 要：田園都市線下り宮崎台～宮前平駅間走行中の列車で人身事故が発生、相手方の救護および乗客の避難誘導を実施
- 参加者：宮前消防署、鷺沼駅、長津田検車区 計約 20 名



② 駅構内テロ対策合同訓練（長津田駅）

- 実施日：2025 年 7 月 23 日
- 場 所：こどもの国駅構内
- 目 的：テロ災害対応を主眼とした関係機関との連携訓練を実施し、不審者が有毒ガスをまくテロ災害が発生した際に円滑な対応を図る
- 概 要：こどもの国駅のホームにおいて不審者が有毒ガス（塩素ガス）をまくテロ災害が発生したことを想定し、青葉区内の 4 つの関係機関が連携した訓練を実施
- 参加者：青葉消防署、青葉消防団、青葉警察署、東急長津田駅 計約 50 名



③ 駅構内テロ対応合同訓練（溝の口駅）

- 実施日：2025 年 10 月 23 日
- 場 所：二子新地駅下りホーム、高津消防署
- 目 的：駅構内における不審物・不審液体事案ならびに CBRNE 災害発生時の初動対応力および関係機関との連携強化
- 概 要：10月15日に高津消防署で実施された不審な液体散布事案を想定した消防訓練を見学後、10月23日に CBRNE 災害対応訓練を実施。CBRNEとは、化学（Chemical）、生物（Biological）、放射性物質（Radiological）、核（Nuclear）、爆発物（Explosive）の頭文字を取った災害区分。訓練では、二子新地駅下りホームを溝の口駅下りホーム、溝の口乗務区会議室を溝の口駅務室と想定し、初動対応、救護・運搬、情報伝達、指揮運用に関する訓練を関係機関と実施

- 参加者：東急溝の口駅、高津消防署、JR 武蔵溝ノ口駅、高津区役所計約 30 名



④ 駅構内粗暴犯対策合同訓練（目黒駅）

- 実施日：2025 年 12 月 17 日
- 場 所：目黒駅構内
- 目 的：駅構内における不審物発見・粗暴行為による初動対応ならびに警察への連絡通報方の訓練
- 概 要：駅ホームにおいて、粗暴犯が刃物を所持し暴れる事案が発生し、その後、不審物の存在が判明する事態へ発展する想定のもと、訓練を実施。駅係員は速やかに 110 番通報を実施するとともに、警察と緊密に連携しながら、周囲のお客さまの避難誘導および安全確保対応を実施。警察官到着後は現場対応を引き継ぎ、機動隊機能別部隊（爆弾処理班）により不審物が安全に除去されるまでの一連の対応について確認
- 参加者：大崎警察署、東急目黒駅、東急五反田駅、JR 目黒駅、大崎警察署協議会、機動隊機能別部隊、プレッセ目黒店、JR 東急目黒ビル防災センター、東急アメニティー 計約 60 名



⑤ 車内粗暴犯対応合同訓練（蒲田駅）

- 実施日：2026 年 2 月 18 日
- 場 所：蒲田駅構内、蒲田駅 4 番線留置車両を使用
- 目 的：初動への即応力の向上および、警察・消防・隣接ビル各社との連携意識の向上
- 概 要：蒲田駅へ向けて走行中の列車内で、刃物を所持した犯人が、車内のお客さまに危害を加えている想定で実施。お客さまの避難誘導、警察・消防・隣接ビル各社への通報訓練を実施
- 参加者：蒲田警察署、矢口消防署、東急蒲田駅、東急プラザ、JR 蒲田駅、グランデュオ蒲田、京急バス 計約 50 名



お客さまと ともに

お客さまとのコミュニケーションを通して、
さらなる安全確保に努めるとともに、
お客さまにより安心してご利用いただけるよう、
さまざまな情報を発信しています。

お客さまのさらなる安全に向けて

サービス介助士資格取得講座の実施

お年寄りやお身体の不自由なお客さまにも安心して東急線をご利用いただけるように「おもてなしの心と介助技術」を学んでいます。鉄道の現場で活躍する駅係員、乗務員と車両技術員のエキスパート社員が2003年度からサービス介助士の資格を取得し、現在も高い取得率を維持しています。



お身体の不自由な方の行動を体験



車いすの操作方法を教習

お客さまへのお声かけの取り組み

ホームからの転落事故防止を目的として、視覚障がいをお持ちのお客さまをお見かけした際は、駅係員や警備員からお声かけをするとともに、列車への乗降の誘導案内を実施しています。



駅係員から白杖をご利用のお客さまへのお声かけ

●「声かけ・サポート」運動の実施

2016年11月より「声かけ・サポート」運動を実施しています。お困りになっているお客さまへ駅係員よりお声かけをするだけでなく、ご利用のお客さまにもお困りの方に対して助け合いのご協力を呼びかけています。

視覚に障がいのある方は、自分に声をかけられていることがわかりにくいため、「盲導犬を連れた方、…」 「白い杖をお持ちの方、…」 など、本人を特定できる特徴を添えてお声かけすることで、気付いていただきやすくなります。

さらに、「大丈夫ですか?」「お手伝いしましょうか?」などの言葉でお声かけください。特に危険を察知した場合には、ためらわずにサポートをお願いします。



バリアフリーアプリの導入

駅係員が車いすをご利用のお客さまなどをご案内する際、ホームドアなどに貼られている二次元バーコードを業務用スマートフォンで読み取ることで、お客さまが降車する予定の駅※へスムーズに正確な情報を伝えます。

※一部の相互直通乗り入れ駅とも連絡可能



二次元バーコードを読み取り、お客さまの乗車位置を降車駅へ伝達

感染症予防の取り組み

駅構内トイレ手洗器の非接触・自動水栓化100%※を2021年2月3日に完了しました。また、全個室にシートクリーナーを設置しています。

※荏原中延駅、世田谷線(上町駅除く)、こどもの国線は構内トイレがありません。多機能トイレ内の補助的手洗器・オストメイトは一部手動水栓です。



手洗器の自動水栓



個室内のシートクリーナー

お客さまの声による改善

東急お客さまセンターなどに寄せられる「お客さまの声」は、毎週、社長をはじめとした経営陣に報告の上、さまざまな取り組みに生かしています。また、顧客満足度調査などから、お客さまにとっての最善策を考え、新たな価値を生み出す施策につなげています。

お客さまの声を受けて行った改善事例については、毎月、全部門が出席する「CS・広報推進会議」にて紹介し、全体共有を行っています。



CS・広報推進会議

● 変電所騒音の改善

お客さまの声



変電所で、ダクトの所に白い丸いプラスチックの札が風で揺れてパイプに当たり、ずっとカチカチ音がしている状態です。位置を調整するか固定してほしい。

変電所屋上の空調用配管に設置しているバルブ開閉表示プレートが風により配管と接触し、音が鳴っていることを確認。屋上に設置してある全8個のプレートの取り外しを行い、速やかに騒音対応を行いました。

対策



● みんなの声を、みんなのために。GOOD ACTION プロジェクト

お客さまの声



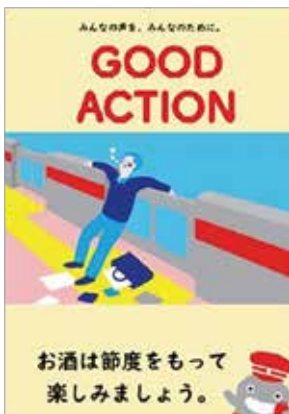
ホームで酔った人を見るとドキッとします。

東急線のご利用マナーに関するお客さまからのご意見をテーマとして、マナー啓発ポスターを制作しました。駅でのポスター掲出の他、デジタルサイネージや車内モニターでの放映も実施し、お客さまへご理解・ご協力をお願いしています。

対策



〈飲み過ぎ注意編〉



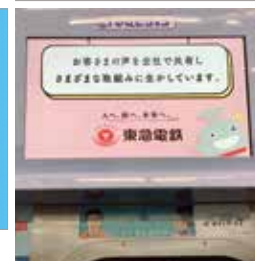
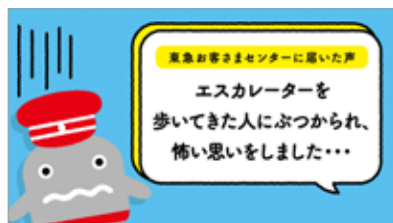
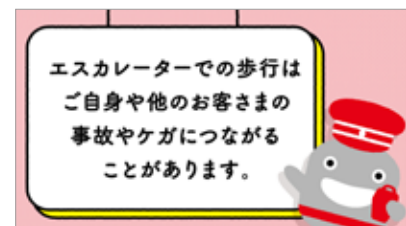
駅のデジタルサイネージで掲出

お客さまの声



エスカレーターを歩く人とぶつかった。

〈エスカレーター歩行編〉



車内モニターで放映

お客さまとのコミュニケーション

お客さまへの安全啓発

お客さまに安全にご利用いただくため、イベント、車内モニター、ポスターなどを通してさまざまな情報を発信しています。

● 安全対策やテロ対策に関する情報発信

安全・安心に東急線をご利用いただくため、車内モニターや駅貼りポスターを利用して安全に対する取り組みをお伝えしています。また、車内に設置されているさまざまな安全設備について、非常時にお客さまにお願いしたい操作やご注意いただきたいポイントを紹介した「おしえて！東急線 走行中の車内で緊急事態が発生したとき編」を当社ホームページなどでお知らせしています。



「走行中の車内で緊急事態が発生したとき」のお願いを車内モニターで放映



東急電鉄ホームページ「おしえて！東急線」
<https://www.tokyu.co.jp/special/oshiete/>



YouTube【公式】東急電鉄チャンネル
<https://www.youtube.com/watch?v=Y0tw2zOOoxo>

● イベントなどでの“安全コミュニケーション”

▶ こども隙間転落防止プロジェクト

保護者さまに加え、お子さまに列車乗降時のホームと列車との「隙間」を認知していただくことを目的とした「こども隙間転落防止プロジェクト」を行っています。駅にポスターを掲出している他、各種沿線イベントでの動画放映、沿線の保育園や学童保育への出張授業で、安全啓発活動に取り組んでいます。特に出張授業では、モックアップを用いた隙間体験や紙芝居、動画放映などを行っています。

こども隙間転落防止プロジェクト スキマモリ
<https://www.omcd.ac.jp/sukimamori/>



駅に掲出したポスター



モックアップを用いた隙間教育



出張授業での動画放映

▶ 地域での安全教室

2025年12月27日、地域連携活動の一環として療育支援室を訪問し、外出の機会が限られているお子さまを対象に、マスコットキャラクター「のるるん」との触れ合いなどを通じて、駅や鉄道に親しんでいただく機会を提供しました。また、当日は駅にお越しいただき、駅係員の案内のもと、ホームから列車の発着を間近で見学いただきました。

本活動を通して、地域のお子さまやご家族にとって、鉄道や駅が「安心して訪れることのできる身近な存在」となることを目指すとともに、地域とのつながりを大切にしたい取り組みを今後も継続していきます。



療育支援室での訪問安全教育

「東急線アプリ」での情報発信



東急線の運行情報、各駅の時刻表や列車走行位置、また、運休や遅延などの運行支障が生じた際に便利な迂回ルート検索など、東急線に関するさまざまな情報やサービスを発信するスマートフォン向けアプリケーションです。

● マイページ機能

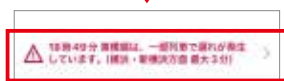
よくご利用になる駅を設定することで、運行状況がトップ画面でご確認いただけます。また、一部路線では3分以上の遅れをご案内しています。

▶ 3分以上の遅れが発生した場合



マイページのトップ画面に表示します。

運行に3分以上の遅れが生じると



※対象路線は東横線・目黒線・東急新横浜線・田園都市線・大井町線です。

平常運転時
「マイページ」トップ画面

▶ 15分以上の遅れや運転見合わせが発生、または見込まれる場合



プッシュ通知による運行情報の配信も行っています。

※路線や時間帯、曜日がご選べいただけます。

15分以上の遅延発生時、または見込まれる場合の「マイページ」トップ画面

● 輸送障害時のご案内

運休区間の路線図や振替輸送のご案内を表示する他、迂回ルート検索機能をご利用いただけます。



15分以上の遅れや運転見合わせが発生、または見込まれる場合の「運行情報」トップ画面



近隣の駅までの徒歩ルートをご案内する迂回ルートページ 例：都立大学駅

● 列車走行位置のご案内

列車がどこを走っているかリアルタイムに確認することができます。遅延している場合は遅延時分が表示され、列車アイコンをタップすると行き先や到着時刻・混雑度を確認できます。



● 優先席のご案内

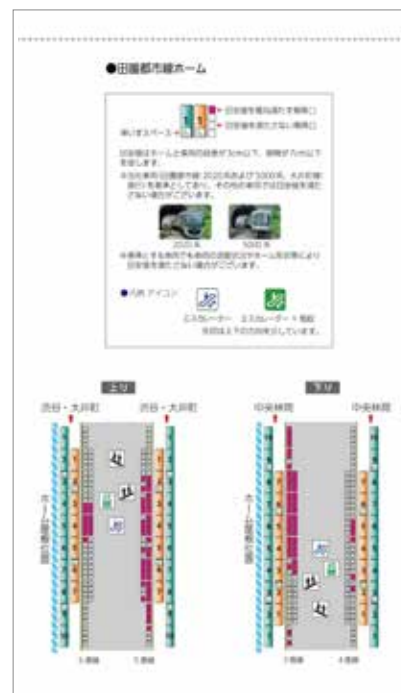
「列車走行位置」画面に表示されている「列車マーク」から「車両情報」をタップすると車内レイアウトが表示され、優先席の場所を確認することができます。



※対象路線は東横線・目黒線・東急新横浜線です。

● 「ホームと車両床面の段差・隙間」のご案内

当社保有車両において目安値（ホームと車両の段差が3cm以下、隙間が7cm以下）を、おおむね満たす乗降口をピンクの表示としています。



東急線アプリのダウンロードはこちらから

iPhone から
アクセス

App Store
からダウンロード

Android から
アクセス

Google Play
で手に入れよう



各スマートフォンの OS バージョンの対応情報は
リンク先のページにてご確認ください。

※Apple、Apple ロゴ、および iPhone は、米国その他の国で登録され、Apple Inc. の商標です。App Store は、Apple Inc. のサービスマークです。iPhone の商標は、アイホン株式会社とのライセンスにもとづき使用されています。

※Google Play、Google Play ロゴ および Android は、Google LLC の商標です。



**東急グループご案内窓口
東急お客さまセンター**

TEL : 03-3477-0109
月～金 9:00～17:00
土日祝 9:00～17:00
(年末年始などを除く)

「安全報告書 2026 東急電鉄 安全への取り組み」
2026 年 8 月発行
東急電鉄株式会社
鉄道事業本部 安全戦略推進委員会
〒150-8533 東京都渋谷区神泉町 8-16
<https://www.tokyu.co.jp/railway/>

制作：東急株式会社 セラン事務局